

令和6年度「夢につなげる」教育ミニ集会 記録

鴨川市立田原小学校 令和6年10月26日（土）

創立150周年記念事業第2弾として、10月24日～26日に3日間の『ホームカミングデー』を開催し、3日目には、「夢につなげる」教育ミニ集会を行いました。3名のパネリストの方をお招きし、「夢につなげる」をテーマにお話をいただきました。

パネリスト	鴨川出身のフルート奏者	鷹松 李奈氏
	市内在住の箱根駅伝走者	中山 裕貴氏
	元本校PTA会長	犬石 貴久氏
ファシリテーター	本校教諭	辰馬 基倫

鷹松氏

Q小学生の頃にどのような夢を持っていたのでしょうか。

小学校の時、マーチングバンドに所属し、フルートをしていました。当時からコンクールやコンサートに出ており、コンクールでは、鈴木信太郎先生と一緒に演奏したりもしていました。コンクールでは、両親や友達、先生方が喜んでくれたので、演奏することはとても好きでした。

でも、注目されたり、目立ったりすることは得意ではなくて、恥ずかしいなと思うところもあったので、フルート奏者になりたいという夢よりも、フルートが好きで、演奏するのが好き、楽しいという気持ちしかなかったと思います。

Qフルート奏者として頑張っていきたいと決めたタイミングやきっかけは何かあったのでしょうか。

鴨川でフルート奏者というお仕事をしている人があまりいなかったもので、フルート奏者はどんなお仕事なのだろうと思っていました。中学、高校と外へレッスンに行ったり、いろんなコンサートに行ったりして、みんなを笑顔にさせたり、キラキラ聞いてくれたり、嬉しいお仕事で、自分も楽しめるし、自分にとっても喜ばしい仕事だなとだんだん認識して、なりたいたいと思っていました。

Qフルート奏者になりたいという夢を実現するために努力してきたことは何かありますか。

ほぼ毎日コツコツ練習しました。学生の頃は朝から夜までやっていました。小学校の時も、授業が始まる前に朝から学校に行って練習して、昼休みも吹いて、放課後も時間があったら吹いて、という生活をしていました。なによりも、コツコツと諦めずに続けることが、頑張ってきたことのかなと思います。諦めないことを頑張るとは疲れてしまうかもしれないけれど、無理だと思ったら、それはそれで今は色んな選択肢があるので、選んでいいと思うのですが、自分を信じて、諦めないでやってきたことが自分にとって努力してきたことと思います。



Q今持っている新たな夢というのはありますか？

普段は、東京を中心に活動しているのですが、だんだん地元での活動ができていけたらいいなと思っています。自分1人でできることではないけれど、何年かかるかわからないけれど、鴨川に音楽を聴ける場所や、音楽をできる場所ができたらいいなと思っています。

中山氏

Q陸上競技を頑張っていきたいとか、箱根駅伝に出場したいと夢を持ったきっかけは、何だったのでしょうか。

小学生の頃に初めて走ることに出会いました。出会ったきっかけは、渡邊校長先生です。当時、隣のクラスの担任の先生で、昔は陸上や体操、水泳大会を学校毎にやっていて、厳しく指導していただきました。それが最初のきっかけで走ることの楽しさや達成感を学びました。また、その時はソフトボールをやっていました。小学校の時の夢は、甲子園に出たいというのが最初の夢でした。中学校に行っても野球をやって、高校に行っても野球をやりたいというのが最初でした。中学に入って、野球を頑張っていたのですが、中学2年生の時



に高校の授業について考えていきたいと思った時、テレビで甲子園を見てみると、体の大きい人や技術もすごかったので、自分では無理だなと思ってしまいました。自分の中でもう1度やりたいことは何かと思い、小学校のころに渡邊先生に教えてもらった走ることの楽しさとか達成感を思い出し、陸上をやってみようと思い、高校から本格的に始めました。地元の長狭高校にいったのですが、2年の時に県大会で4位になり、安房郡で初めて14分台で5000mを走ったことをきっかけに箱根駅伝で走りたい思いが強くなり、1年半練習を頑張り、大学までいくことができました。本当に自分の中で陸上をやりたいと思ったのは、高校からになります。

野球をやったり、ソフトボールをやったり、色んなことにチャレンジした結果が夢につながったと思います。

Q夢を実現するために努力してきたこと、励んできたこと、練習の時に意識していたことを教えてください。

大学に入ってから、最初のギャップ、練習のレベルの違いに驚かされて、1か月でやめようと思いました。でも、周りにいた仲間に励まされたり、目標を持つことの大切さを感じたりしました。箱根駅伝で走りたいという1つの目標に対して、例えば、今日1日これを頑張ろうとか、明日はこれを頑張ろうとか1つ1つの積み重ねというのが大事だなと感じました。

みなさんにも、ただやるのではなく、1日1日、1回1回の練習に対して目標を持って取り組むことが大事だと思います。自分も大学生で出場できましたが、1個1個の目標をもって努力することの大切さや、仲間の心の支え、仲間の大切さをすごく感じました。だからこそ走れたと思います。

Q箱根駅伝に向けて頑張っていた自分と今の自分が何か繋がっていると思うことはありますか？

今、農林水産課で働いています。2年くらい前まではスポーツ振興課で働いていました。スポーツ振興課で、子どもたちと触れ合う機会も結構ありました。イベントがあれば、子どもたち対象であったり、地域の方々の対象であったり、いろんなことを学んできました。仲間の大切さや、一緒に取り組んでくれた方々への感謝の思いを改めて感じました。仕事でもつらいこと、やめたいって思うこと

もあると思います。でも、周りの職員や、地域の人を思うと頑張らないといけないなと感ずるので、仲間の大切さ、諦めない気持ちが陸上を通して学んだことだと思います。

犬石氏

**Q夢という視点で田原の子どもたちについて今思っていることはありますか？
しょうか。**

お2人からは、あるきっかけから目標を叶えた、夢を叶えたといういい話を聞かせてもらいました。みなさんの中で、頑張っていることってありますか、という質問の中で手を挙げてくれた子もいました。これも素晴らしいと思います。では、手が上がらなかった、今目標がないというのは、じゃあどうかの話ですが、僕は現在夢を持ってなくてもいいと思います。正直、僕自身が小学生の時に夢というものを持ってはいませんでした。ただ、みんな好きなこと、興味があることはあると思います。

僕は小学生の頃に、字がうまくなりたいと言って習字をやりました。暗算が得意になりたいとそろばんをやり、剣道もやりたいと言ってやらせてもらいました。教えてくれたのは、みんな地域の人たちです。教えてもらったことでどんどんできるようになったので、みなさんの役に立ちたい、将来は鴨川の役に立つ仕事に就きたいなと思ったのが夢を持った最初のきっかけでした。積み重ねで夢が出てくると思っています。

みなさんの中で現在、夢と言われても…という子はいると思いますが、気にすることはありません。必ずなにかのきっかけがあります。やりたいと思ったことがあったら、ぜひ取り組んでももらいたいと思います。

大谷翔平さんは、たくさんの名言を残していますが、高校の時に夢ノートを書いていました。夢ノートの1つにこういうものがあります。人生が夢を作るんじゃない、夢が人生を作るんだという言葉がありました。その通りで、夢を持っていくことから人生が始まります。夢中という漢字がわかりますか？夢をかなえる途中という意味です。何かに夢中になる。その通りです。夢中になることは、夢をかなえて第1歩を踏み出していくこと。みなさんもぜひきっかけを掴んで、夢に向かって頑張っ

Q子どもたちに色んなことにチャレンジしてもらいたいなと思っているのですが、保護者の方がどのように子どもの夢を応援したらいいでしょうか。

保護者のみなさんには、子どもがやりたいと真っ先に思ったことを後押ししてもらいたいというのが、同じ保護者の立場として思います。もちろん、応援できるものもあれば、難しいなというものもあるのですが、できるだけ、やりたいと言ったものは、協力をしてあげるということが大事なかなと思っています。

田原小には、土曜日に色んな活動をする土曜スクールというスクールがあります。無料で参加できる、誰でも参加できるスクールなので、途中からも参加可能です。来年度からでも参加できます。年間20回の中で、色々な活動をスタッフの皆さんが用意してくれます。好きなものもあれば、嫌いなものもあるかもしれません。それを見極めることができます。色んなことにチャレンジしてみよう。ぜひ、参加していただければなと思っています。



Q現在持っている夢というのは、なにかありますでしょうか。

下の子どもも土曜スクールに小学校1年生からお世話になりました。小さい時は、表に出ていく子ではありませんでした。でも、土曜スクールをやっていく中で高学年になり、最終的に小学校6年生で運動会の応援団長になって、結果、負けましたが、目の前で涙を流して挨拶をしていた姿は忘れません。こういった前向きさ、そういったものが培われる場でもあります。

感情豊かな子どもたちが育ってもらえればというのが1つです。もう1つは、地域の皆さんがぜひ子どもたちにたくさん関わっていただきたいというのがあります。保護者の皆さんもいれば、地域の方もいらっしゃると思うのですが、ぜひ色々な機会に、子どもたちと一緒に活動ができる場があったら、たくさんの地域の方を呼んで、一緒に活動しませんかというような声掛けをしていきたいです。

子どもリサイクルをはじめ、いくつかの活動にはぜひ引き続き参加したいと思います。そういった輪が広まってチーム田原ができていることが僕の望みでもあります。

Q田原の未来についてなにか考えていることがありましたら、お話ししたいと思っています。

お伝えしたいことが2つあります。1つは、保護者や地域の皆さん、私も頑張ります。子どもたちを支援する輪が広がれば、チーム田原が広がればいいなと思います。もう1つは、子どもたちに関することです。せっかくこの田原で生まれ育って今成長しています。将来大きくなった時に、そのまま住みたいなって言ってくればありがたいし、なかなかそうもいかないかもしれません。その場合は、何かあるごとに帰ってきたいな、将来戻ってきたいなと思える子どもたちになってもらいたいと思っています。鴨川のためにと思ってくれている大人の方もたくさんいます。

ここにいる65人の子どもたちに将来、田原のために何かできたらと思う子どもたちが育ってくれたらいいな、チーム田原に入ってくれたら嬉しいなと思っているのが今の僕の夢です。

参加した児童の感想（抜粋）

○鷹松さんのお話から、こつこつ練習をすることが大事だということを改めて感じました。

急に上手くなる人はいないから地道に努力することが夢への近道だと思いました。

ぼくも自分の夢に向かって辛くても毎日欠かさず練習をしたいです。

○中山さんの「今できなくても、これからできるようになる」という言葉が心に残りました。

できないことに落ち込まずに、次またがんばればいいとわかりました。私はすぐいやなことから逃げてしまっていたけれど、これからはこの言葉を大事にして自分の夢につなげていきたいです。

○犬石さんの「今はまだ夢がなくても大丈夫」という言葉が印象的でした。ぼくはまだ夢がないことを恥ずかしく思って急いで夢を探していたけれど、犬石さんの話を聞いて少し気が楽になりました。自分の好きなことを夢にしてもいいなと思いました。

これから焦らずに自分の夢を見つけていきたいです。

紙面の都合上、内容の一部を省略しています。（記録：富永）